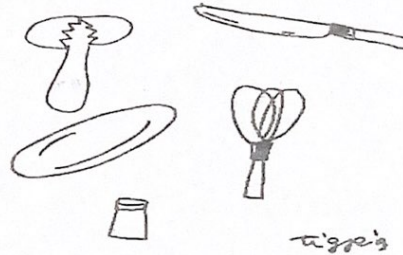


母塾

2019・3・4

VOI・15

新小岩幼稚園・未就園児クラス



『 レストランごっこ 』

アドバイザー 猪之鼻晴子

つき組のママたちは先日のレストランごっこの参観いかがでしたでしょうか。
レストランごっこは新小岩幼稚園の3年間の活動の集大成となる。

子どもたちがホットケーキ屋さん・パンケーキ屋さん・プリン屋さん・おでん屋さん
に分かれてそれぞれ活動する。自分たちで準備し・開店・後片づけまでやり、
頼りは最低限の先生のアドバイスだけ。参観のつき組のママたちも子どもたちに
声をかけてはいけないルールになっている。

嬉しそうにお財布とチケットを持って帰ってきた年少のロク。
それを見て、「なつかしい、私おでん屋だった」と高3次女。「オレはホットケーキ屋」
と小6三男。「ああいうお店やりたいな。」と21才長女。
初めての長男のレストランごっこの参観をしてのは17年前だ。
17年間、その前からメニューややり方が変わっていないようだ。

その日も子どもたちは楽しそうにお客さんになったり、お皿洗いをしていた。
年少さんが長男のチームのおでん屋さんに来てくれた。
テーブルに着きひとりで座っている。5分経ってもおでんは来ない。
10分経っても運ばれてこない。文句も言わず、泣かずにじっと待っている。
あとから来た子たちに先におでんが来て食べ始めてしまった。長男はというと、
そんなことは気にも留めずに、おともだちとふざけて笑っている。
しびれを切らして「さっきからあの子ずっと待ってるよ」と注意してしまった。
ルール違反だった。それからの4回の参観は注意して黙って見ている。
子どもたちはお茶をこぼしたり、ホットケーキを落としてしまっても、お互いに
助け合って仕事をやり切っていた。最後はチケットを数えて喜び合っている。
初めての経験で失敗するのは当たり前だし、そこでどう対処するかを学んでいたのだ。
年少さんはつき組さんのお兄ちゃんやお姉ちゃんを信頼しているので、泣かずに
待てるのだな。とやっと気づいた。「待つ」ということは「信じている」ということ。
待てないのは私の方だった。
年少さん、年中さんはつき組さんを信じている。先生方もつき組さんを信じている。
失敗しても必ず乗り切れる。今勉強している真っ最中なのだ。と。
そういう気持ちを持って、子どもや後輩を育てられる社会であつたら。
今、学校に、アルバイト先に、会社に、レストランごっこの素が残っているだろうか。

ロクがプリン屋さんに行きたいのに、おでん屋さんに入ってしまった。
「じゃ、お店のかんばんがまちがえていたのかな？」と言うと。
「ロクちゃんがまちがえちゃったの。つき組さんはまちがえないよ。」
幼稚園の中でつき組さんは絶対的な存在らしい。